

2019年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2019年2月12日

上場会社名 KeePer技研株式会社 上場取引所 東・名  
 コード番号 6036 URL <http://www.keepercoating.jp/corp/>  
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 谷 好通  
 問合せ先責任者（役職名） 取締役事業サポート 永田 裕一（TEL）0562-45-5258  
 本部長兼店舗開発部長（氏名）  
 四半期報告書提出予定日 2019年2月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有（機関投資家・アナリスト向け）  
 （百万円未満切捨て）

1. 2019年6月期第2四半期の業績（2018年7月1日～2018年12月31日）

（1）経営成績（累計）（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年6月期第2四半期	4,478	13.2	844	20.5	856	20.6	542	16.3
2018年6月期第2四半期	3,957	4.2	701	1.7	710	3.1	466	10.5
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2019年6月期第2四半期	38.47		38.37					
2018年6月期第2四半期	33.11		32.99					

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年6月期第2四半期	7,371	4,784	64.9
2018年6月期	6,953	4,368	62.8

（参考）自己資本 2019年6月期第2四半期 4,784百万円 2018年6月期 4,368百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年6月期	—	0.00	—	9.00	9.00
2019年6月期	—	0.00			
2019年6月期（予想）			—	11.00	11.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 2019年6月期の業績予想（2018年7月1日～2019年6月30日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,304	13.5	1,150	31.9	1,170	31.5	750	28.7	53.18

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年6月期2Q	14,102,020株	2018年6月期	14,102,020株
② 期末自己株式数	2019年6月期2Q	78株	2018年6月期	78株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年6月期2Q	14,101,942株	2018年6月期2Q	14,089,228株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日において、当社が入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき策定したものであり、実際の業績等は様々な要因により予測数値より大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、決算短信（添付資料）P4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間(2018年7月1日から2018年12月31日)におけるわが国の経済は、企業収益や雇用環境の改善が続き、個人消費も底堅い動きとなりました。しかしながら、国際情勢は引き続き不透明な状況にあり、経営環境の先行きには注意を怠ることはできません。

このような環境のなか当社では、ユーザーに提供されるKeePerコーティングの品質の維持・向上を従来以上に実現していくことが、当面の業績を向上させるだけでなく、将来に向けての発展を目指したKeePerブランドのブランディングを確実にしていくために最も重要であると考えています。

当第2四半期会計期間(2018年10月1日から2018年12月31日)は、直前の9月の記録的な悪天候による不調に対して、10月はその反動ともいえる好調ぶりであり、単月での売上が6億87百万円(前年同月比37.3%増加)、営業利益が98百万円(同2,049.4%増加)と突き抜けました。11月も比較的好調であり売上が7億49百万円(同10.1%増加)、営業利益が98百万円(同8.9%増加)でありました。

12月に関しては、キーパーLABO運営事業の多くの新店が順調に成長してきて収益を上げ始めている事に加えて、キーパー製品等関連事業において最も重要な顧客であるガソリンスタンドが、大手石油元売りの会社合併によってKeePerなど「油外収益商品」の販売が一時的に低迷して前年度の減益を招いていましたが、合併に伴う混乱も落ち着き、完全に元のペースに戻って店頭でKeePerの販売が復活し、12月のキーパー製品等関連事業の売上高は6億10百万円(同5.2%増加)でありました。

キーパーLABO運営事業の年間最需要期である12月はスローペースで始まりました。まず記録的な暖冬で、冬の季節に車を汚す原因となる”露”や”霜”が降りずに車が汚れず、しかも第1週土日の翌週が連続して雨天が予報されつつ実際に降り、第2週も雨天が続き、「洗車」の台数がまったく伸びない日が続き、12月10日時点において前年実績のある既存店前年同月同日の売上比で3.0%増加でした。第2週まで雨天が続くと心理的なクレイマインドが下がる影響は少なくなく、12月15日時点では、前年実績のある既存店前年同月同日の売上比で10.0%も減少となり、心穏やかではありませんでした。

しかし、年末が近づくとつれて、高価格のダイヤモンドキーパーを中心に施工台数が大きく上がって来て最終的に全店舗で前年同月比21.8%増の2,219台、前年実績のある既存店だけでも前年同月比3.2%増の1,868台施工して平均単価を既存店だけでも9.9%押し上げて12,372円/台とし、前半の来店台数の減少が響いて12月通しての既存店来店台数が12.4%減となった結果をカバーする形となり、売上高は4億90百万円(同10.4%増加)でありました。

その結果、12月の売上高合計は11億1百万円(同7.5%増加)、営業利益4億34百万円(同9.7%増加)となりました。増加の幅はさほど大きくはありませんでしたが、特に、日本の企業全体が28日で仕事納めの企業が多かった為、29・30・31日の短期決戦という厳しい状況でしたが、よくぞここまで追いつけた、と言えるものと思います。

その結果、当第2四半期会計期間(2018年10月から2018年12月)において売上高では25億39百万円(前年同期比15.0%増加)、対予算比は3.1%増加、売上総利益は18億73百万円(同17.1%増加)、対予算比は2.7%増加、営業利益は6億31百万円(同28.5%増加)、対予算比は17.6%増加となりました。これは当初立てた販売予算計画のペースを着実にオーバーしております。

さらに、当第2四半期累計期間(2018年7月から2018年12月)におきましては、売上高44億78百万円(前年同期比13.2%増加)、対予算比は0.5%減少。売上総利益33億7百万円(同15.2%増加)、対予算比は0.1%減少。営業利益8億44百万円(同20.5%増加)、対予算比8.4%増加となりました。

累計期間としての売上高と売上総利益は販売予算計画にまだ僅かに足りませんが、新店が1ヶ月に1店舗ずつのペースに戻して来ており、販管費の圧縮につながって営業利益が前年同期比20.5%増加となり、対予算比も8.4%とオーバーしてきているので利益計画そのものの若干の上方修正をすべきと考えます。

#### ① (キーパー製品等関連事業)

当事業における最も大きなシェアを占めている石油販売業界は、合併劇がひと段落して穏やかな雰囲気になっており、当事業に最も大きな影響力のあるキーパープロショップ店舗の総数は、増加が鈍っています(期首5,769店→現在5,792店)

また、2018年12月に行われた「冬のキーパー選手権」においては、100万ポイントを(コーティング収益約150万円程度に匹敵)越すような高得点の店舗が791店舗も出て目立って増えています。第2四半期累計期間におけるレジ2、爆白、爆ツヤなどのメイン商品の出荷本数が前年同期比12.3%増加と増えており、この事業の売上高においても前年同期比11.0%増加であり、明らかにこの分野での復調が見られます。

また、洗車のお客様への販売がしやすい新製品「艶パック」の発売がはじまっており、日本市場への普及とタイへの輸出開始で第2四半期累計期間にて計11,643本が出荷されており、順調に出荷数を伸ばしております。なおIT関連業界への販売は計画が進展しつつも現時点においてまだ公表できる段階には至っておりません。

これらの結果、当セグメントの当第2四半期累計期間における売上高は25億93百万円（前年同期比8.4%増加）、セグメント利益は7億41百万円（同35.6%増加）となりました。ただし、内部取引による利益が99百万円含まれており、内部取引控除後の利益は6億42百万円（同39.2%増加）となります。

## ②（キーパーLABO運営事業）

キーパーLABO運営事業においては、新店の開発が1番の急務であると考えて参りましたが、キーパーラボという店舗がストックビジネスの性質を持っている店舗であり、新規オープン以降から採算に届くまでゆっくりとした成長が年単位であり、採算に届くまでの発展途上の期間を約3年とするならば、前期と前々期だけでもすでに36店舗オープンしており、全77店舗中の半数近くが発展途上店である事になります。一時的であるとはいえこのいびつな状態は前期の増収減益の事象を生み出した要因となっております。したがって今後の新店開発については店舗数最優先から採算性重視の立地条件優先の考え方に転換する必要があると考えております。

とはいえ、長い期間をかけて開発しては後発競合に隙を与えるだけでなく、長期の拡大成長の力を失いかねないとして、今期においても新規開発に力を注ぎ、第2四半期累計期間に5店舗(前期は同期間に6店舗)の出店を実現しました。

- 2018年 8月 千葉県・市原店
- 2018年 9月 大阪府・鶴見店
- 2018年11月 埼玉県・わらび店
- 2018年12月 愛知県・名古屋東店／神奈川県・湘南 平塚店
- 2019年 1月 広島県・広島東雲店
- 以降の開店予定
- 2019年 3月 三重県・松阪店
- 2019年 4月 東京都・杉並店

確実な立地を求めつつ新店開発活動に力を入れて行くと同時に、既存店の新ブランディングデザインに従ったりリニューアルの活動も並行して行って参りました。

- 北海道・札幌店 →外装変更と看板変更
- 埼玉県・さいたま店→店舗構造大幅変更
- 千葉県・柏店 →ブース増設と外装変更
- 神奈川県・上溝店 →トレーニングセンター増設
- 愛知県・中川店 →看板変更と内装変更
- 愛知県・一宮店 →看板変更
- 愛知県・甚目寺店 →土間整備と看板変更
- 愛知県・半田店 →外装変更と看板変更
- 愛知県・岡崎店 →外装変更と内装変更、看板変更
- 福岡県・久留米店 →外装変更と構造変更

前期と前々期に集中して造ってきた新店が続々と2年目のジャンプの時期を迎えてきており、キーパーLABO運営事業の採算改善に寄与しています。

加えて、2019年の4月には65名の新卒新入社員の入社が予定されております。また、中途採用社員も月に数名のペースで採用しつつあり、人材採用難のご時勢の中で、当社は大変恵まれた環境にあると言えます。

人の採用にも一役買っている「スーパーGT」では、昨年と同じく平川亮選手とニック・キャンディ選手で戦いました。#37KeePerTOM'S LC500は、最終戦の最後1.5秒差で惜しくもシリーズ2位で負けましたが、その戦いぶりにはチャンピオンに匹敵するものであり、人気はうなぎのぼりとなって、KeePerのブランディングに多大な貢献をしてくれました。

これらの結果、当セグメントの当第2四半期累計期間における売上高は18億84百万円（前年同期比20.4%増加）、セグメント利益は2億2百万円（同15.6%減少）となりました。ただし、内部取引による費用が99百万円含まれております。

## (2) 財政状態に関する説明

### ①資産・負債及び純資産の状況

#### (資産)

当第2四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ4億18百万円増加し、73億71百万円となりました。これは主として、売掛金が4億17百万円増加、新規出店等により有形固定資産が1億9百万円増加、商品が1億68百万円減少、建設協力金が60百万円増加したこと等によるものです。

#### (負債)

当第2四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末に比べ2百万円増加し、25億87百万円となりました。これは主として、未払法人税等が1億87百万円増加、買掛金が69百万円減少、1年内返済予定の長期借入金が89百万円減少したこと等によるものです。

#### (純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ4億15百万円増加し、47億84百万円となりました。これは主として利益剰余金が四半期純利益により4億15百万円増加したこと等によるものです。

### ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は前事業年度末に比べ0百万円増加し、18億25百万円となりました。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は前年同四半期に比べ2億74百万円増加し、6億40百万円となりました。収入の主な内訳は、税引前四半期純利益8億25百万円であり、支出の主な内訳は、売上債権の増加4億19百万円であります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は前年同四半期に比べ15百万円減少し、3億61百万円となりました。支出の主な内訳は、有形固定資産の取得による支出2億78百万円、建設協力金の支払による支出60百万円であります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は前年同四半期に比べ50百万円減少し、2億77百万円となりました。支出の主な内訳は、長期借入金の返済による支出1億50百万円、配当金の支払額1億26百万円であります。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年6月期の業績予想につきましては、本日（2019年2月12日）公表いたしました「通期業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年6月30日)	当第2四半期会計期間 (2018年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,824,866	1,825,808
受取手形	159,428	161,905
売掛金	600,274	1,017,797
商品	477,016	308,647
貯蔵品	26,630	28,663
前払費用	123,812	65,725
その他	3,811	48,570
貸倒引当金	△229	△366
流動資産合計	3,215,610	3,456,752
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2,162,148	2,235,677
構築物（純額）	147,369	166,959
機械及び装置（純額）	87,566	88,922
車両運搬具（純額）	22,849	25,471
工具、器具及び備品（純額）	112,000	119,158
土地	458,140	458,140
建設仮勘定	2,744	7,776
有形固定資産合計	2,992,820	3,102,106
無形固定資産		
ソフトウェア	40,876	38,507
その他	23,713	22,836
無形固定資産合計	64,589	61,343
投資その他の資産		
投資有価証券	16,722	17,290
長期前払費用	32,876	33,084
敷金及び保証金	303,484	311,966
建設協力金	148,489	208,719
保険積立金	13,091	13,091
繰延税金資産	155,857	167,463
その他	10,286	370
貸倒引当金	△276	△360
投資その他の資産合計	680,532	751,626
固定資産合計	3,737,942	3,915,076
資産合計	6,953,552	7,371,829

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年6月30日)	当第2四半期会計期間 (2018年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	195,484	125,547
1年内返済予定の長期借入金	160,439	70,673
未払金	256,511	260,520
未払法人税等	139,658	327,060
未払費用	135,234	147,998
賞与引当金	22,631	24,519
その他	77,027	73,138
流動負債合計	986,986	1,029,457
固定負債		
長期借入金	1,071,923	1,011,136
退職給付引当金	192,385	209,178
役員退職慰労引当金	227,213	230,751
資産除去債務	102,852	103,191
その他	4,043	4,043
固定負債合計	1,598,417	1,558,300
負債合計	2,585,404	2,587,758
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,345,867	1,345,867
資本剰余金	1,007,224	1,007,224
利益剰余金	2,013,890	2,429,543
自己株式	△61	△61
株主資本合計	4,366,920	4,782,573
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,227	1,497
評価・換算差額等合計	1,227	1,497
純資産合計	4,368,148	4,784,070
負債純資産合計	6,953,552	7,371,829



## (2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2017年7月1日 至2017年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自2018年7月1日 至2018年12月31日)
売上高	3,957,363	4,478,199
売上原価	1,087,034	1,170,554
売上総利益	2,870,329	3,307,645
販売費及び一般管理費	2,169,279	2,462,954
営業利益	701,050	844,691
営業外収益		
受取利息	422	494
受取配当金	180	180
為替差益	681	118
受取手数料	6,509	4,132
受取保険金	2,951	9,211
その他	260	1,680
営業外収益合計	11,004	15,818
営業外費用		
支払利息	1,968	3,600
その他	—	389
営業外費用合計	1,968	3,989
経常利益	710,085	856,519
特別利益		
固定資産売却益	89	1,054
特別利益合計	89	1,054
特別損失		
災害による損失	—	3,765
固定資産除売却損	3,264	28,301
特別損失合計	3,264	32,067
税引前四半期純利益	706,911	825,507
法人税、住民税及び事業税	231,651	294,660
法人税等調整額	8,754	△11,723
法人税等合計	240,405	282,936
四半期純利益	466,505	542,570

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2017年7月1日 至2017年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自2018年7月1日 至2018年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	706,911	825,507
減価償却費	94,106	115,409
貸倒引当金の増減額(△は減少)	154	221
退職給付引当金の増減額(△は減少)	17,175	16,792
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△8,982	3,538
受取利息及び受取配当金	△602	△674
為替差損益(△は益)	△29	90
支払利息	1,968	3,600
固定資産除売却損益(△は益)	3,174	27,246
売上債権の増減額(△は増加)	△347,458	△419,999
たな卸資産の増減額(△は増加)	166,035	166,335
仕入債務の増減額(△は減少)	△116,809	△69,936
前払費用の増減額(△は増加)	23,331	58,086
未払金の増減額(△は減少)	46,131	55,764
未払費用の増減額(△は減少)	△14,356	12,764
その他	△16,539	△41,589
小計	554,211	753,155
利息及び配当金の受取額	602	674
利息の支払額	△1,968	△3,600
法人税等の支払額	△187,536	△109,922
営業活動によるキャッシュ・フロー	365,309	640,307
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△316,313	△278,614
有形固定資産の売却による収入	89	2,633
無形固定資産の取得による支出	△9,850	△3,860
貸付けによる支出	—	△1,850
貸付金の回収による収入	1,100	810
敷金及び保証金の差入による支出	△58,132	△12,588
敷金及び保証金の回収による収入	1,543	4,105
建設協力金の支払による支出	—	△60,000
その他	4,785	△12,442
投資活動によるキャッシュ・フロー	△376,777	△361,804
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	△195,022	△150,553
ストックオプションの行使による収入	704	—
配当金の支払額	△133,816	△126,917
財務活動によるキャッシュ・フロー	△328,134	△277,470
現金及び現金同等物に係る換算差額	29	△90
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△339,573	942
現金及び現金同等物の期首残高	1,468,608	1,824,866
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,129,035	1,825,808

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

前第2四半期累計期間(自 2017年7月1日 至 2017年12月31日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	キーパー製品等関連事業	キーパーLABO運営事業	
売上高			
外部顧客への売上高	2,391,864	1,565,498	3,957,363
セグメント間の内部 売上高又は振替高	144,225	—	144,225
計	2,536,090	1,565,498	4,101,589
セグメント利益	546,837	239,534	786,372

## 2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	786,372
セグメント間取引消去	△85,322
四半期損益計算書の営業利益	701,050

(注) セグメント間の内部売上高144,225千円は、キーパー製品等関連事業から、キーパーLABO運営事業に対するものです。キーパー製品等関連事業のセグメント利益546,837千円には、セグメント間の内部売上高による利益85,322千円を含んでおります。

当第2四半期累計期間(自 2018年7月1日 至 2018年12月31日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	キーパー製品等関連事業	キーパーLABO運営事業	
売上高			
外部顧客への売上高	2,593,798	1,884,401	4,478,199
セグメント間の内部 売上高又は振替高	169,854	—	169,854
計	2,763,652	1,884,401	4,648,054
セグメント利益	741,590	202,270	943,860

## 2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	943,860
セグメント間取引消去	△99,169
四半期損益計算書の営業利益	844,691

(注) セグメント間の内部売上高169,854千円は、キーパー製品等関連事業から、キーパーLABO運営事業に対するものです。キーパー製品等関連事業のセグメント利益741,590千円には、セグメント間の内部売上高による利益99,169千円を含んでおります。